

『伝わる挨拶』

R 4 . 5 . 1 7

本校は今週末の体育大会に向けて準備と練習の真っ只中。グラウンドから元気な声が聞こえてきます。応援合戦の踊りもだいぶん様になってきました。と言ったら真剣に取り組んでいる生徒たちに怒られそうです。

今朝は「のぼり」の披露が体育館でありました。どちらの団も迫力満点です。当日、乞うご期待。

さて、そんな生徒たちの姿を横目で見ながら、長靴を履いて一輪車を押していると、1年教室から見ていた生徒から「こんにちは!」と挨拶されました。いつものように私も「こんにちは!」と返します。いつもの光景です。でも次の瞬間続けて「お疲れ様です!」と声をかけてくれたのです。グラウンド近くを歩いているときも「お疲れ様です!」と別の生徒から挨拶されました。なんだかうれしくなってきました。

そのように声をかけてくれた生徒たちは、きっと、私の長靴を履いて腕まくりしている姿から、あるいは一輪車を押している姿から、私が何らかの作業をしていると察したのでしょう。そしてねぎらいの言葉をかけてくれたのです。私にはその生徒たちの優しい気持ちが伝わってきました。

先週、生活委員会が朝の「あいさつ運動」を行っていました。生徒同士で学年関係なく挨拶を交わしている姿はとても気持ちの良いものでした。そういった生徒の自治活動としての取組が、先ほどのような気持ちの伝わる挨拶へとつながっているのでしょう。

本校生徒会の「四本柱」の一つ「あいさつ」は、間違いなく伝統として引き継がれていると感じさせてもらった出来事でした。



本校生垣のサツキ。そろそろ見ごろを終えそうです。

体育大会当日、サツキ晴れとなればよいのですが。